

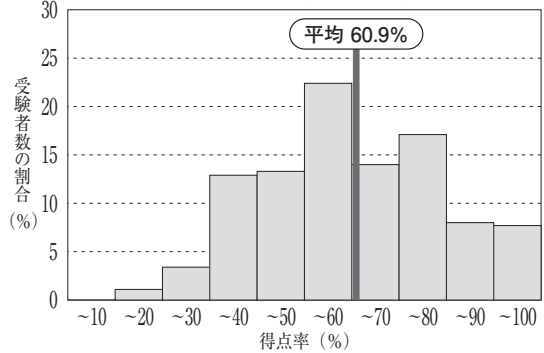
英語 (リスニング)

多くの音声に触れ、聴解力を高めよう。

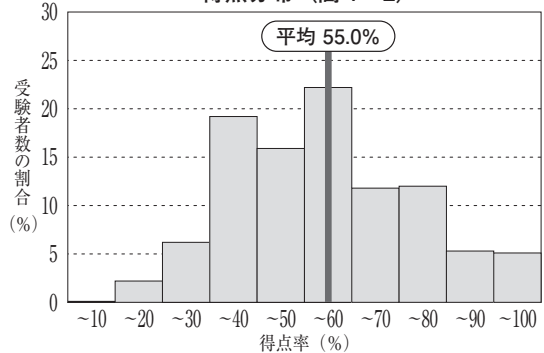
I. 全体講評

今回の受験学年（高3生・高卒生）の平均点は30.5点で、得点率にして61%という結果だった。高2生が28.2点、高1生が26.4点であり、筆記同様に、これらの数値は現段階での学年別のレベル差を反映したものであろう。総じて見れば平均的な成績と言えるだろうが、今後はさらなる底上げを期待したい。大問別の得点率を見ると、受験学年では、最高が第3問Aの72.8%、最低が第4問Bの52.5%で、全体的に大きな差はなかったわけであるが、第3問Bから第4問Bにかけての後半3つのパートは、いずれも50%台にとどまった。これらの出題内容は確かに難しいものであったが、それだけにここで好成績を取れば大きな差をつけることにもなる。リスニングでの高得点を目指し、耳のトレーニングを怠りなく続けてほしい。

得点分布 (受験学年)



得点分布 (高1・2)



II. 大問別分析

■各学年の平均点、大問ごとの得点率

学年	平均点	第1問	第2問	第3問A	第3問B	第4問A	第4問B
高1	26.4点	55.4%	56.8%	64.2%	45.0%	49.9%	37.0%
高2	28.2点	58.4%	60.1%	67.9%	49.2%	52.7%	42.2%
受験学年	30.5点	60.3%	65.2%	72.8%	55.5%	54.0%	52.5%
全員	29.3点	59.2%	62.7%	70.3%	52.4%	53.1%	47.7%

第1問 対話の聞き取り (語句・イラスト選択) 差が出やすい数値問題!

第1問の受験学年の得点率は60.3%とほぼ平均的であった。小問別正答率を見ると、40%台から70%台に及んでいたが、40%台にとどまったのは問2と問3の2つの問題だった。文書としてゆっくり読めば問題ないだろうが、対話を聞いて即座に判断するのは容易ではない。問2は簡単な計算が求められる数値問題である。この種の問題では計算

が必要になることを予め想定しておき、一度目の読み上げで何が求められているのかを掴み、二度目の読み上げで具体的な数値を求めるなど、解答のプロセスに自分なりの型を作っておくといいたい。過去のセンター試験で類似問題を数多くこなして、自分の型を完成させておくことをすすめたい。

第2問 対話の聞き取り (応答文選択)**文脈的な整合性を重視しよう!**

今回の第2問の受験学年の得点率は65.2%とかなりの好結果を示した。小問別の正答率を見ても、1問を除いて50%台~80%台と安定していた。唯一、正答率が50%に満たなかったのは問11であったが、ここでは正解②のpurseの聞き取りが鍵を握っていた。③を選んだ人がかなり多かったが、文脈的には逆の内容であるので、もう一度本文をチェックしてほしい。ここで、第2問に関する一般論として改めて強調しておきたいのは、短いながらも文脈をしっかり掴むことの大切さである。話題の中心が何かはもちろん、対話をどのような形で引き継ぐのかに神経を集中しよう。平叙文で終わっているなら、対話の流れ全体から判断して、最も自然な応答を見つけなければならない。これに対し、疑問文で終わっている場合、その内容を正しくキャッチすることによって、少なくとも選択の幅はかなり絞ることができるだろう。

第3問 A 対話の聞き取り (質問文に答える)**本番までこの調子を維持しよう!**

今回の第3問Aの受験学年の得点率は72.8%で、すべての大問中最高の成績であった。小問別の正答率も60%台から80%台とバランスがとれていた。本番でも、この調子を維持し、安定して得点できるようであってほしい。第3問Aは短い対話に基づく内容一致問題である。今回は良好な結果を示したわけだが、短い英文だからといって必ずしも容易なわけではない。設問によってはトリッキーなケースがある。やはり文脈全体、対話全体の流れを掴むことが肝心である。特に、親しい人物同士の対話では、情報を明確に伝える説明的な文とは異なり、多様な感情表現や、ユーモア、誇張、皮肉などの要素が加わることも珍しくない。言葉の裏の意図や心理を読み取るようにしたい。その点、今回の問14などはどうだったか。もし間違えたならば、人物たちの意図や気持ちを適切に汲み取れたかどうかをチェックしてほしい。

第3問 B 長めの対話の聞き取り**情報の整理にメモの活用を!**

第3問Bの受験学年の得点率は55.5%で、特に良くも悪くもなかった。内訳を見ると、最初の小問

の正答率が75%ほどだったのに対し、残りの2問はいずれも40%台にとどまった。小問によっては、長い対話の流れの中で、解答に直結する情報を整理するのが難しかったということかもしれない。第3問Bは対話形式を用いながら、説明的な情報を正確に掴めるかどうかを試している。図やリストの空所を埋めるためには、細部の正確な聞き取りが欠かせない。かなり長い対話文である上に、さまざまなリストの項目や、今回はあてはまらないが、数詞や序数が含まれることもあり得るので、うまくメモを取る工夫をしたいところである。

第4問 A 長めの文章の聞き取り**ストーリー性のある英文にも慣れておこう!**

今回の第4問Aの受験学年の得点率は54.0%であった。小問別の正答率を見ると、それぞれ70%台後半、50%、そして30%台前半で、かなりばらついていてことがわかる。不振だった最後の小問は話の結末に関わる箇所、やや残念な結果である。今年の第4問Aの出題形式が今後も続くとなると、ストーリー性のある文章を聞き慣れていることが重要になるだろう。また、今年のセンター試験の問題を見ると、一部にかなり長めの設問文があった。場合によっては、選択肢も長くなる可能性があり、こうした点を考慮すると、聞いて理解することは勿論大事であるが、読んですぐに理解する必要性も心得ておくべきであろう。こうした課題に対処するためにも、日々の英語学習に音声教材を利用するなどして、積極的に音読を取り入れてもらいたい。

第4問 B 長めの会話の聞き取り**要求水準は高いが、最後まで集中しよう!**

今回の第4問Bの受験学年の得点率は52.5%で、全大問中で最も低かった。しかし、50%をクリアしたことで、ハードルの高い大問としては悲観するほどの結果とは言えない。小問別の正答率を見ると、30%台にとどまった箇所が1つあり、これが全体の得点率に大きく影響した。間違えた箇所については、読み上げ文を見直して確認してほしい。リスニング問題は筆記問題とは比較にならないほど高い集中力を要する。その最後に待っているのが、長い会話文を素材とする内容一致問題のこの第4問Bである。毎回多くの人が苦戦する大問であるが、これに対処するには日々のトレーニングで聞き取る際

の集中力を持続させる鍛錬をするほかはない。少しずつでよいから徐々に長い英文を集中して聞き取る訓練をしていこう。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆受験生及び既に受験勉強に励んでいる人へ
センター試験までの2か月余りを使って、1問でも多く正解を得られるように対策を行おう。特に、まだリスニングに苦手意識がある人は、以下を参考に復習に努めてもらいたい。

まず、解答解説書の「読み上げ文」を読んで、内容をすべて理解できるかどうか確認しよう。わからない語句や表現は解説・辞書・参考書を利用して確実に理解すること。

理解が完全になった段階で、模試の復習ツールのリスニング音声で、読み上げ文を「音」として確認してみる。初めは読み上げ文のスク립トを見ながら、次にスク립トを見ずに音だけでどのくらい内容を理解できるか聞いてみよう。そして、リスニングの音声を真似て何度もスク립トを音読してみる。数日間集中して行い、同じ速度でつかえずに音読できるまで何度も繰り返すこと。この音読学習を行ったあとで英語を聞くと、以前よりはるかに英語の音を聞き取れることが実感できる筈だ。短期集中のできる効果的な学習法なのでぜひ実行してほしい。

◆これから本格的な受験勉強に取り組む人へ
今回初めてセンター試験形式の問題を解いた人は、センター試験で出題されるリスニング問題のイメージが掴めただろう。約30分間集中して英語を聞くことの大変さを味わった人もいるかもしれない。リスニングといっても、まずは内容を理解するために必要な語彙力・文法力などの基礎力を固めることが先決なので、あせらず基礎固めを行うこと。また、英語を頭から理解する必要があるリスニングの学習は、知らず知らずのうちに英語力全般の向上にもつながるので、基礎固めを終えた人は積極的にリスニング学習を行おう。そのために大切なことは、日頃から英語の「音」を意識して学習すること。とくに、英語の音は聞くだけでなく、積極的にその音を真似て自分で発音してやる必要がある。文法や語彙の学習時にもしっかり声に出して読

んでみることをすすめたい。毎日少しでも英語を耳にする環境を作り、また自分で音読することを習慣にしたいうえで、リスニングの問題演習に取り組もう。